

4章 岡崎市の緑の課題と計画の方向性

4-1 緑の課題と計画の方向性

本市における緑の課題を、本市の緑を取り巻く社会情勢の変化、及びそれらに伴う制度の改正や上位・関連計画の動向、前回計画策定時からの進捗・達成状況、緑の現状及び市民の緑に関する意見を踏まえて抽出しました。

さらに、これらの課題を分野や内容ごとに統合し、緑の基本計画における取組み（施策）を考えていくための基本的な方向性を示します。

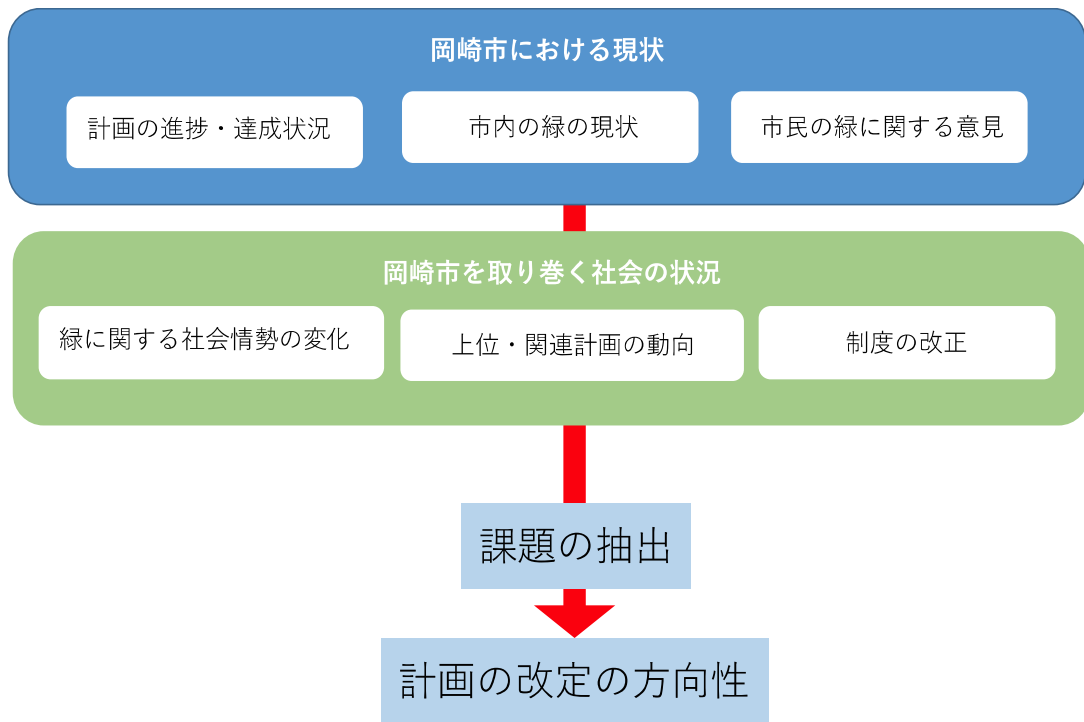


図 4-1 課題の抽出と方向性の決定

1章
岡崎市緑の
基本計画について

2章
計画改定の背景

3章
岡崎市の緑を
取り巻く現状

4章
岡崎市の
緑の課題と
計画の方向性

5章
計画の理念と
基本目標

6章
緑の推進施策

7章
計画の
評価指標の設定

8章
計画の実現に
向けて

参考資料

4-2 岡崎市の緑の課題

① 公園施設の老朽化・陳腐化による維持管理コストの増加

- ・ 現在の市内の都市公園は 1970～1980 年代に集中して整備された住区基幹公園が多く、開設後 30～40 年を経過する老朽化・陳腐化した箇所が増加しています。このため、公園の維持管理コストは増加傾向で推移しており、多様化が予想される市民のニーズに対し、今後も限られた予算・人材の中で適切な対応を行い、魅力ある公園を維持していく必要があります。

② まちづくりの将来像（集約型都市*）を踏まえたよりよい緑の配置の実現

- ・ 前回計画時の指標である「市街化区域内における都市公園などに歩いて行ける地域の割合」は目標水準を維持している一方で、市民一人当たり公園面積の地域間の偏りは顕著となっています。本市の西部地域などにおける公園の不足は市民アンケートからも意見が出されており、今後も公園配置の地域格差が広がっていく可能性があります。
- ・ 平成 31（2019）年 3 月に策定された「岡崎市立地適正化計画」が目指す将来的な集約型都市構造を踏まえた上で市民がアクセス・利用しやすい公園や、快適な住環境を維持するための水と緑のネットワークの適切な配置を実現していく必要があります。

③ 都市農地の減少傾向と新たな法制度への対応

- ・ 本市における開発需要は依然高いことから、今後も生産緑地や市街地周辺農地の減少傾向は高まる可能性があります。
- ・ 都市緑地法改正により、都市緑地における「あるべきもの」としての農地の再位置づけがなされており、より良い形での農地の保全と活用を検討していく必要があります。

④ 森林整備における担い手不足や新たな法制度への対応

- ・ 森林整備ビジョンの短中期目標の達成状況や担い手不足の現状、また森林経営管理制度など新たな法制度を踏まえ、多面的機能を有する森林の適切な保全と活用、維持管理を進めていく必要があります。

⑤ 主要な河川と周辺市街地の水と緑のネットワークの維持

- ・ 乙川や伊賀川などの河川、ため池や湿地などの水辺は周辺の樹林地などと一体的に市街地近郊の水と緑のネットワークを形成しており、生物多様性おかざき戦略などと連携し、引き続き保全を図る必要があります。

⑥ 防災地域づくりの考え方を踏まえた緑の配置・整備

- ・ これまで本市における緑と防災の主な関係は、岡崎中央総合公園の広域防災活動拠点への位置付け、新規整備公園における防災ファニチャーの設置などの取組みが行われてきましたが、地震災害のみならず風水害のリスクが全国的に高まる今日の状態において、防災に資する多面的なグリーンインフラとしての機能を踏まえたより広範な緑地の活用を検討していく必要があります。
- ・ 平成 31（2019）年 3 月策定の「防災都市づくり計画」などを踏まえ、公園緑地の再配置・再整備においても防災の視点を導入していく必要があります。

⑦ 緑の多面的な機能発揮に向けた創出・維持管理の実現

- ・ 前回計画のアクションプラン評価の結果、街路樹維持管理や生物多様性に配慮した植栽マニュアル整備など、緑の質向上に関わる取組み（施策）で実施しきれなかった部分が多く残っています。
- ・ 緑の役割として防災、生物多様性、市民の生活の質の向上といった多様な機能の充実が求められていることを踏まえ、緑の質の充実を図る施策や評価方法を改めて検討する必要があります。

⑧ 岡崎らしい歴史的景観の保全

- ・ 「ふるさとの森」「ふるさとの名木」などの保全制度や本市の景観資産として位置付けられた社寺林や歴史的風致について、岡崎市景観計画などと整合を図りつつ岡崎らしい歴史的景観を保全・活用し、都市の魅力を向上させる必要があります。

1章
岡崎市緑の
基本計画について

2章
計画改定の背景

3章
岡崎市の緑を
取り巻く現状

4章
岡崎市の
緑の課題と
計画の方向性

5章
計画の理念と
基本目標

6章
緑の推進施策

7章
計画の
評価指標の設定

8章
計画の実現に
向けて

参考資料

⑨ 健康増進や高齢者・子育て支援など多様なニーズへの対応

- ・ 平成 31（2019）年 3 月策定の愛知県広域緑地計画の方針・キーワードなどと前回計画のアクションプラン評価の比較分析の結果、「健康増進」「高齢者・子育て世代支援」などの視点が不足していました。
- ・ 本市の総合計画において目指す「暮らしを楽しむまち」、また「スマートウェルネスシティ」として、将来にわたり多様な世代の健康増進や暮らしやすさに繋がる魅力ある公園の整備や、緑を活用した運動・レクリエーションの場づくりを進めていく必要があります。

⑩ 観光などの魅力資源としての都市公園の質の向上

- ・ 本市を代表し、観光資源や広域レクリエーションの場となっている大規模公園などについては今後もこのような位置付けを維持していくためにさらに魅力を向上させ、法改正などによる新たな公民連携制度の仕組みを活用した、より積極的な利活用を進めていく必要があります。
- ・ それぞれの公園が持つ固有の特徴や立地・地域特性、市民の利用状況、歴史的背景などを踏まえ、適切な運営維持管理の方針を定めていく必要があります。

⑪ 高齢化・人口減少に伴う地域コミュニティの弱体化による緑の担い手の減少

- ・ 本市は地域を単位とした住民自治の仕組みが整い、これまでも公園・街路樹など緑の維持管理にとどまらず地域の様々な活動に大きな役割を果たしてきました。その一方で既存の活動団体（公園愛護会など）において、担い手の減少による負担の増大が現在課題となっています。
- ・ 「公園愛護運営会」制度による地域住民主体の公園の利活用、運営、維持管理を平成 30（2018）年度から試行的に進めているところですが、その中で「これまでの担い手だけで公園・緑を支えていくことには限界がある」という声が届いています。
- ・ 本市においても将来的に少子高齢化の傾向であり、従来のような地縁による組織の維持が難しいため、新たな地域の緑の担い手を確保していく必要があります。

⑫ 緑に関わる地域イベント・講習などへの参加者の減少

- ・ 市民アンケートにおいて全世代で共通して花づくり活動への参加意欲が高い中、計画指標（緑への知識や関心を高めるための講習会参加者数）評価において目標が未達成となったことから、より幅広い内容や市民への PR 手法の再考など、魅力を高めていく必要があります。

1章
岡崎市緑の
基本計画について

2章
計画改定の背景

3章
岡崎市の緑を
取り巻く現状

岡崎市の
緑の課題と
計画の方向性

5章
計画の理念と
基本目標

6章
緑の推進施策

7章
計画の
評価指標の設定

8章
計画の実現に
向けて

参考資料

4-3 計画の改定の方向性

本市が抱える緑の課題を踏まえて、今後の緑地の保全や緑化の推進、都市公園の整備及び管理に関する計画の改定の方向性を次のとおり定めます。

方向性① 緑が支える集約型都市構造の実現

- ・ 少子高齢化・人口減少といった社会背景と、過去に集中的に整備された公園緑地の維持管理コストの増大を踏まえ、持続可能な公園緑地の運営・維持管理を実現します。
- ・ 本市が目指す集約型都市構造に則った、適切かつ快適な生活環境と健全な水と緑のネットワークを維持しうる緑の保全と配置を進めます。

<関連する課題>

- ① 公園施設の老朽化・陳腐化による維持管理コストの増加
- ② まちづくりの将来像（集約型都市）を踏まえたよりよい緑の配置の実現

方向性② 緑の多面的な機能の発揮

- ・ 都市緑地、森林、農地、河川、道路など本市の有する多様な緑について、生活の質の向上、気候変動の影響低減、防災・減災、生物多様性の確保、レクリエーションの場、持続可能な資源生産と利活用など、緑の有する多面的な機能を発揮する質の高い緑（グリーンインフラ）の創出・保全・維持管理に努めます。

<関連する課題>

- ③ 都市農地の減少傾向と新たな法制度への対応
- ④ 森林整備における担い手不足や新たな法制度への対応
- ⑤ 主要な河川と周辺市街地の水と緑のネットワークの維持
- ⑥ 防災地域づくりの考え方を踏まえた緑の配置・整備
- ⑦ 緑の多面的な機能発揮に向けた創出・維持管理の実現

方向性③ 緑の活用による都市の魅力形成

- ・ 史跡や社寺と一体となった歴史的風致の緑や乙川・伊賀川のサクラ並木など、本市らしい多様な緑の保全による魅力あるまちづくりを継続します。
- ・ 多様な世代、社会的背景の住民にとって暮らしやすく魅力あるまちづくりに資する公園や緑とのふれあいの場づくりを推進します。
- ・ 拠点的な公園・身近な公園や森林・農地・水辺などの多様な緑がそれぞれの特性を活かし地域のニーズに対応し、賑わい拠点として魅力を発揮するよう公民連携による取組みを推進します。

<関連する課題>

- ⑧ 岡崎らしい歴史的景観の保全
- ⑨ 健康増進や高齢者・子育て支援など多様なニーズへの対応
- ⑩ 観光などの魅力資源としての都市公園の質の向上

方向性④ 緑を担う人づくりとコミュニティの維持・向上

- ・ 高齢化や人口減少によるコミュニティの在り方の変化を踏まえ、公園の維持管理・活用に関して、地域住民以外も含めた幅広い関わりを目指します。
- ・ 緑に関する啓発活動や環境教育の質や広報を向上させ、多様な緑の創出や保全に関して市民協働を推進します。

<関連する課題>

- ⑪ 高齢化・人口減少に伴う地域コミュニティの弱体化による緑の担い手の減少
- ⑫ 緑に関わる地域イベント・講習などへの参加者の減少

1章
岡崎市緑の
基本計画について

2章
計画改定の背景

3章
岡崎市の緑を
取り巻く現状

4章
岡崎市の
緑の課題と
計画の方向性

5章
計画の理念と
基本目標

6章
緑の推進施策

7章
計画の
評価指標の設定

8章
計画の実現に
向けて

参考資料

